

ひだまり

第13版
平成29年10月

公立八鹿病院緩和ケア病棟



猛暑、豪雨と大変な日々がうそのように、朝夕の涼しさ、秋空を感じ、そして黄金色の田では秋の収穫が終わりました。緩和ケア病棟でも、トマト・なす・きゅうりを収穫し新鮮な野菜を患者さんご家族に食べていただきました。秋は食べ物が一番美味しい季節です。病棟でも工夫を凝らした食事を心がけています。緩和ケア病棟での食事について皆様にご紹介しようと思います。

緩和ケア病棟での食事の考え方

緩和ケア病棟では心の緩和として「食べる」ということを大切にしています。食事は「栄養を摂る」以外にもいろいろな意味を持っています。希望や、楽しみのひとつです。しかし、図1のような体調の変化に伴い、その楽しみが失われることがあります。



1) がんによる症状

疼痛・嘔気・便秘・嚥下困難・口内炎・味覚異常・
電解質異常など

2) 消化器系の病変

胃内容物停滞・腹水・消化管狭窄・閉塞など

3) 治療によるもの

薬剤性・放射線療法・高カロリー輸液

4) 心因性

不安・抑うつ・人間関係

5) 環境の不備

食習慣の変化・病室の環境

淀川キリスト教病院:ホスピス編
緩和ケアマニュアルより引用

【図1】

そこで、食欲不振の原因を考え原因にあった薬物療法や対症療法を行います。栄養科とも連携をとりながら、平日のみの対応になりますが、毎朝、管理栄養士訪問をおこなってもらい、直接患者さんご家族の「声」を聞いていきます。

自分で食べたいものを決定する。このことを大切にしています。患者さんの希望はさまざまです。食べたいものを考えている時は、いきいきとした表情

をされています。茶碗蒸し、お寿司、お肉、うなぎどんぶり。麺類、サンドイッチなど。また、医師の許可があれば、食欲増進や気分転換の目的で飲酒も行うこともあります。嚥下が難しい患者さんには、食事形態の工夫や食べやすいもの（湯豆腐や果物）がないか考えていきます。病棟で作成している特製ミックスジュースやカキ氷も患者さんご家族に「美味しい」と喜んで

いただいています。

食べたいときに食べたいものを。大切にしていることは「栄養をとる」に重点を置くのではなく、「楽しみながら食事する」ということです。

QOL（クオリティ・オブ・ライフ 生活の質）の向上を大切にしています。患者さまご家族と一緒にスタッフ一同考えていきたいと思っています。



【美味しいかき氷どうぞ】 【コンソメスープも好評ですよ】 【庭園で収穫した茄子と胡瓜の即席漬け】



～管理栄養士より～

食事の事を考える事は、人が生活をする基本的な事です。

そのきっかけとして、当院の緩和ケア病棟では、リクエスト食として直接患者さんへ伺い、食事のリクエストをお聞きしています。

「さあ、何しましょうか」「私の大好きなオムライスにする」と自ら食べたい料理をリクエストされた時には笑顔を浮かべられ、「いいですね、それにしましょう」とこんな具合で患者さんと食事の事を一緒に考えます。そんなリクエスト食には、最期まで食べたいと思う気持ちを支える事が出来る、心を支える食事だと私たちは考えています。

口から食事を摂る事は、食べる楽しみや喜び、満足感などが得られます。その人らしく生きられる様、生活の中で一番身近な食事を通じて少しでも喜んで頂きたいと思っています。

編集後記～



今回は病棟での食事についての取り組みをお伝えさせていただきました。いかがでしたか。病棟では、スタッフが持ちよった鈴虫が鳴いていました。秋を感じ心癒される日々です。多くの皆様に「ひだまり」が目にとまりますように。

文責:谷口